

## 秀吉好み？金のきせる 初代伏見城跡から高麗青磁なども

2008年10月28日



高麗青磁の茶托(ちゃたく)＝京都市伏見区



金箔(きんぱく)が張られたきせる＝保存処理をしている吉田生物研究所提供



京都市伏見区東奉行町の財務省宿舍建設現場で、豊臣秀吉が建てた最初の伏見城の堀の遺構が見つかった。調査を委託された西近畿文化財調査研究所(兵庫県加東市)が27日発表した。堀の底から金箔(きんぱく)を張ったきせる、高麗青磁の茶托(ちゃたく)の破片も出土した。

伏見城は桃山―江戸時代に何度も建て替えられた。千田嘉博・奈良大准教授(中世考古学)は「当時の天下人の居城のうち、初代伏見城だけ実態が判明していなかった。中世から江戸時代の城の構造の変遷を知る手がかりになる」と話す。

発掘された堀は長さ11メートル、幅16メートル、深さ2.2メートル。南北方向に掘られ、西側護岸には4段の石垣が積まれていた。きせるは金箔が張られた銅製で、火皿と雁首(がんくび)(計6センチ)、吸い口(7センチ)の部分が見つかった。同研究所の村尾政人所長は「秀吉の黄金好みをまねて大名たちが使った品ではないか」とみる。高麗青磁は、秀吉の朝鮮出兵をきっかけに多く流入したとされる。

また、堀に隣接して江戸末期の伏見奉行所跡も見つかった。幕末の鳥羽伏見の戦いで新撰組(しんせんぐみ)など幕府軍が陣取り、薩摩軍の砲撃で全焼した史実通りに、焼けた瓦や土壁、崩れた石垣などが出土した。

現地説明会は11月1日午後1～3時。雨天中止。

〈伏見城〉豊臣秀吉が1592年、伏見・指月(しげつ)に隠居所として初代の城を建設。1596年の地震で倒壊し、北約500メートルに移された。秀吉の死後に徳川家康が入城。1600年、関ヶ原の戦いの前に石田三成らの軍によって落城したが、間もなく家康が再建。徳川家光が1623年に取り壊した。

[アサヒ・コムトップへ](#)

キーワード: [高麗青磁](#) [伏見奉行](#) [伏見城](#) [石田三成](#) [新撰組](#)

### 関西の文化・エンタメニュース一覧

[天皇・皇后両陛下下迎え、源氏物語千年紀記念式典 京都](#) (11/1)

[奈良・明日香村民民、「飛鳥美人」と2度目の対面](#) (11/1)

[キトラ古墳・朱雀のはぎ取った泥から赤い顔料、下に絵か](#) (10/31)

[真宗大谷派の宗務総長、前宗議会議長の安原晃氏が就任へ](#) (10/31)

[半世紀の歴史に幕 うめだ花月でワンコインライブ](#)  (10/31)

[記事一覧](#) |